

# FUJIEDA ROTARY CLUB Weekly Bulletin

例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL 054-641-3321  
事務局：藤枝市青木1-9-16 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040  
E-mail club1972@fujieda-rotary.org



【日本平動物園にて】

写真提供：青島克郎君

会長：村松 英昭 副会長：青島 克郎 幹事：青島 彰 副幹事：仲田 廣志

## 第1740回



<ソング> 四つのテスト  
<ソングリーダー> 杉浦 良一君

2007-2008年度 RIテーマ  
ロータリーは  
分かちあいの心  
ウィルアリッドJ.ウィルキンソン

### 会長報告 村松 英昭君

藤枝順心高校インターアクトクラブの部員2名がこの冬休みに、地区インターアクト海外研修旅行に参加することになりました。研修地はカンボジアです。帰国されたら例会にて研修報告をしていただく予定です。

話は変わりますが、11月30日号の週間朝日に載っていた記事を紹介します。

田原聡一郎のギロン堂というコーナーの記事です。「メディアには広告主を批判する度胸もない」という見出しで始まります。渡邊正裕という人物から「トヨタの闇」という本をもらった。この本では新聞と雑誌を標的にしているのだが、実はテレビはもっと広告主には弱い。政治家や官僚は広告主ではないために容赦なくたたく。しかし、多額の広告主を批判する度胸はない。渡邊の本には右のような興味深い表が掲載されている。

【広告宣伝費上位ランキング】

1	トヨタ	105,142
2	松下電器	83,103
3	ホンダ技研	81,580
4	ソフトバンクモバイル	62,692
5	花王	56,021
6	イトーヨーカ堂	50,602
7	日産自動車	48,069
8	KDDI	44,995
9	シャープ	42,111
10	サントリー	37,791
11	キリンホールディングス	37,747
12	ベネッセ	36,607
13	イオン	34,361
14	キャノン	33,013
15	資生堂	32,949

(単位：100万円)

確かにこの15社が新聞やテレビでたたかれることはほとんどない。特に上位10社にはからつきし弱い。このところ、不二家や白い恋人、赤福、御福餅、吉兆などが賞味期限切れ問題で、こっぴどくたたかれているが、いずれもささやかな広告主で、しかも食中毒を起したわけでもない。強きにひ弱で、弱きに残酷なメディアの本性が

あまりにもむき出しで、恥ずかしい限りである。と田原聡一郎は結んでいます。皆様はどのようにお考えですか。

### 幹事報告 青島 彰君

- 国際ロータリー第4430地区GSE報告書が届いております。
- 地区大会実行委員会事務局閉局のお知らせが届いております。
- 藤枝市市民ゴルフ大会実行委員会より協賛の礼状が届いております。
- CLP検討委員会を11月22日午後7:00より事務局にて開催します。

### 出席報告 松葉 義之君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
22 / 35 62.86%	24 / 35 68.57%

- (1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)
- 石垣君 杉山君 鈴木廣君 水野君  
望月俊君 飯塚君 池ノ谷君 板倉君  
鈴木舜君 仲田晃君 望月志君 柳原君 山田君

### 外部卓話

静岡産業大学情報学部 教授 山田登様

『日米文化の相違』



## 1. 始めに

本学部の多くの留学生が、ロータリーの皆様のお心遣いで、御社を見学させていただくことができましたこと、まずもって心からお礼を申し上げます。従来、留学生は日本の産業界について全く知ることもなく、帰国する者が多かったのですが、今回、このような機会を与えてくださったので、留学生は会社組織、内容などについて多くを学ぶことができました。このことは参加した留学生が事後報告書に書いております。貴重なお時間を割いてご説明、社内案内をしてくださったことに対して感謝申し上げます。

さて、本題に入りますが、今日の世界の情勢を見ますと、そこには日本人の志向とは異なるグローバル的志向が存在し、この志向がこの世界を支配していると言うことができます。この志向の代表ともいえるアメリカ人の考え方について本日皆様とご一緒に考えてみたいと思います。

## 2. アメリカ人の価値観

### (1) 独立・独歩

日本では、汽車に乗っても、バスに乗っても、駅や車内で丁寧なアナウンスがなされます。「黄色い線までお下がりください。」「網柵の上の傘を忘れないようにしてください。」「次の上り列車は8時に出ます。」など大声で注意を喚起してくれます。しかし、アメリカでは、このようなアナウンスは一切ありません。ですから例えば自分の降りる駅などを自分で探さなければなりません。アメリカに行って、ずいぶん不親切だと思います。しかし、独立心あるアメリカ人は当然のこととして受け止めています。むしろ度重なるアナウンスなどは過保護だ(依存心が強い)と考えるのです。

また、アリゾナ州にあるグランドキャニオンはコロラド川の川底まで深さ1200メートルもありますが、見学地の高台に柵がありませんし、危険であるという立て札もありません。(高所恐怖症の人はとてもそこには立つことは出来ないでしょう)日本だったら、こんな危険な場所に柵がなく、事故が起これば行政の責任となってしまいます。

なぜ、アメリカには駅などにアナウンスがなく、危険な場所に柵がないのでしょうか。それは幼い頃から自立心を養い、他人に依存しないように躾けられて(教育されて)いるからであると考えられます。

「蟻とキリギリス」の挿話にしても、最後に蟻がキリギリスに餌をやらないのが(自主独立が大切という考えから)アメリカ版で、親切に与えてしまったのが日本版なのです。

このような精神的独立だけでなく、アメリカ人は経済的に独立して生きていくことを理想としており、物質的富を獲得することが価値観のひとつとなっています。これは宗教上、すなわちプロテスタントの価値観に影響されていると思います。富を得た者は貧しいものに施しをする、またはボランティア活動をすることが義務であると考えています。企業も利益を地域社会に寄付することを積極的に行います。カーネギーは3億円を学校や図書館に寄付し、ロックフェラーはシカゴ大学を設立しました。

### (2) 対等意識

日本では客が車に乗るとき後部座席に座ってもらいます。それは客に敬意を払うからです。しかし、アメリカでは、運転手の隣の席に座らせます。誰でも親しく接したい、即ち対等意識が働くからなのです。

また、アメリカ人が日本で驚く光景のひとつに、スーパーマーケットやレストランなどで、客が店員に礼を言わないで店を出ていくことであると言われます。日本人は、客が店に利益を与えるのであって店員が礼を言うのが当たり前であり、黙って店を出る場合が多いのです。しかし、アメリカでは店員に「美味しかった」「ありがとう」などと声を掛ける場合が多い。料理を作ってくれたことや料理を出してくれたことへの感謝の気持ちを言葉で表すのです。そこには上下関係は存在しないのです。

### (3) 弛緩志向

アメリカでは緊張した場面に力を抜いて落ち着

いた言動を取ることができれば人間的に高い評価を得ることができます。アメリカ人はユーモア感覚を持ち、ジョークが得意です。レーガン大統領が至近距離から暴漢に銃で撃たれたことがありました。このとき、彼は周りにいる人々に向かって「首を低くするのを忘れてしまったよ。」と言って、周りの人々を笑わせたといえます。その後、手術台上から大統領は「皆さん、共和黨員になってくれるといいのですが」と言うと、手術担当者が答えて「今日だけ共和黨員になりますよ」と冗談を交わしたという。緊張するときにこそ、リラックスすることが大切だと考えるのです。日本ではこのような場合、とても冗談など言えません。

日本では、いろいろなスポーツの試合や試験などの前に、励ます意味で「頑張れ」とよく言います。しかし、アメリカ人はこのような時に、「気楽にね」(Take it easy.)と言って、肩の力を抜くようにさせます。

#### (4) 主張

日本では「沈黙は金」といって、自己主張をしないことが美德である(現在は変わりつつあります)が、アメリカでは、対立を恐れず自己主張を堂々と行います。主張しない者は愚か者か意見のない者であると軽蔑されてしまいます。アメリカではむしろ他人と異なった意見を持ち、行動ができれば、むしろ高く評価されるのです。

アメリカにおけるコミュニケーションの型はどんなのでしょうか。結論が先で、説明が後になります。一方、日本では「説明が先で、結論は後になります。」実話ですが、海外研修に出かける日本人教師が外国人試験管に面接試験を受けるときのこと、「あなたの学校では風紀上の問題がありますか」と試験管が聞いたところ、その教師は「うちの学校は開学以来100年となり・・・」と話し始めた。それを聞いた試験管はこの候補者は英語がわからないか、英語で表現ができないと思ったという。この質問の場合、まず「ありません」と答えてから、学校の説明などを付け加えれば良か

ったのです。

#### (5) 公正・フェア精神

日本で推薦状を書く場合、候補者の優れた点ばかりを誇張して書く場合が多い。時にはよく知らない者の推薦を頼まれることすらあり、誰にも共通の褒め言葉を並べるのが通例となっています。しかし、アメリカでは推薦書を書く場合、その人物を熟知しており、具体的に細かく記述できる者でない限り推薦書を書くことはありません。短所も書き添えるので相手方に信頼される推薦書となります。

ニクソンがウォーターゲート事件について嘘の証言をしたので、辞任に追いやられましたが、クリントンはルウインスキー女史との不倫があっても正直に内実を話したので辞任に追いやられるどころか、その後70%の支持率を得たのです。アメリカ社会では特に誠実であることが大事な要素であります。

日本の契約書についてみると、「定めていない事項については、双方協議の上決定する」という項目があり、その都度、都合のいいように契約内容を変えることが可能ですが、アメリカの契約書は記されている事項以外はどんな制約も受けません。抽象性を排し、具体的に細かいところまで書かれているのがアメリカの契約書なのです。極端なことを言えば、5分で終わる仕事でもそのままにして部下が帰宅することがあっても、契約書にあれば上司は文句を言うことはできないのです。

#### (6) 感性

日本人は自然のものを好む傾向がありますが、アメリカ人は自然なものに興味を示さないようです。例えば鳥や虫の声、落ち葉や苔の美しさに感動を覚えない。鳥や虫の声は雑音だと思い、落ち葉や苔は汚いものとしか見ないようです。

南極の犬を越冬隊員が現地に残さなくてはならない状況で、西欧人はこれらの犬を射殺するといっています。犬が南極に残されれば、餌が無くなり、次に共食いとなり、最後には餓死することがわかっているからなのです。合理的だといえ、確か

にそうですが、日本人には可愛がってきた犬を目の前で射殺することはなかなかできません。

### 3. 終わりに

アメリカ人がこのような志向を持つのは狩猟民族であり、日本人は農耕民族であるという説があります。農耕民族としては、天気に左右されることが多く、隣人たちと力を合わせて、年間の収穫を見込みながら共同で労働を行っていく。従って、全体との調和や協力が大切となります。一方、狩猟民族は、個々の人々が厳しい自然環境と戦わねばならず、優れた体力やすばやい判断力、即座に反応する瞬発力などが必要となります。このような観点から日米のものの考え方を考察してみるとなるほどと思える点が多くあります。両国の風土が国民性の違いを生み出しているのです。

#### 参考文献

『日米文化の特質』研究者 松本清也

『日米文化比較』立正大学文学部研究紀要 山口喜佐夫

(担当/北村)